

精神科訪問看護の利用者から 訪問看護スタッフへの暴力発生には どのような訪問条件が関連するのか？

藤本 浩一¹⁾、グライナー智恵子²⁾、向畑毅¹⁾、橋本健志³⁾

1) 兵庫医科大学 看護学部看護学科

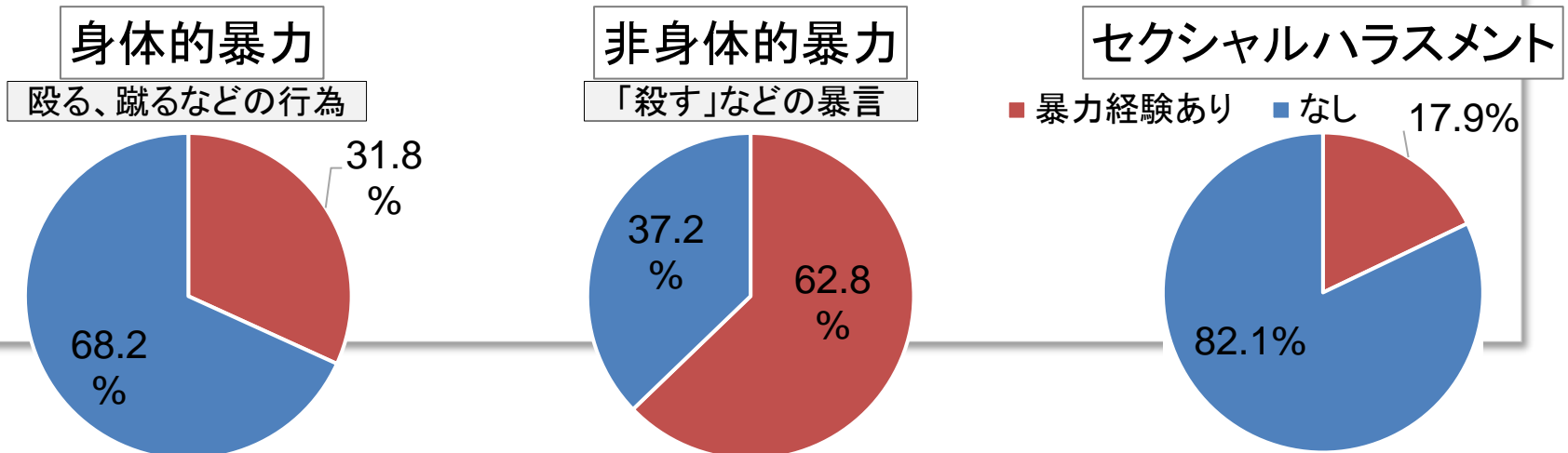
2) 神戸大学大学院 保健学研究科 看護学領域

3) 神戸大学大学院 保健学研究科 リハビリテーション科学領域

看護師は暴力を経験する？

- 実は…ヘルスケア領域で働く専門職者（看護師含む）は暴力を経験しやすい（Lanctôt & Guay, 2014）
- 看護師は最も暴力を経験しやすい職種の一つ（Campbell et al. 2011）

- Spector et al. (2014) のレビュー（数多くの研究のまとめ）によると過去12ヶ月間に暴力を経験した看護師の割合



精神科領域で暴力は発生する？

- 精神科領域は暴力が発生しやすい領域の1つ
(Spector et al. 2014)

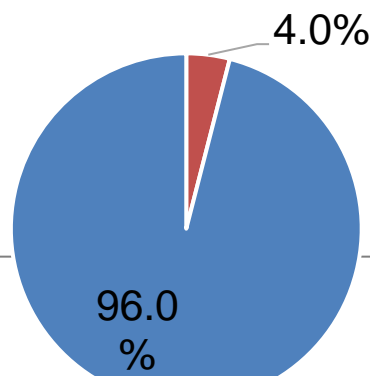


- 日本は精神障害者の地域移行を推進

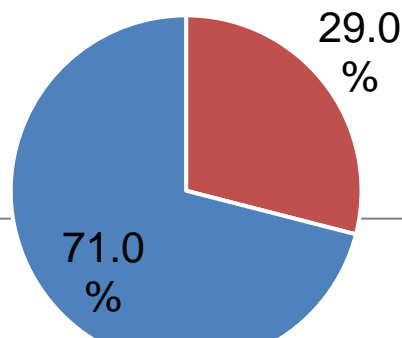
地域移行: 住まいを病院や施設から単に元の家庭に戻すことではなく、障害者が市民として、自ら望んだ住まいで、安心して自分らしい暮らしを実現すること

- 精神科訪問看護は、地域で暮らす精神障害者を支えているけれど、暴力が発生してしまう (Fujimoto et al. 2017)

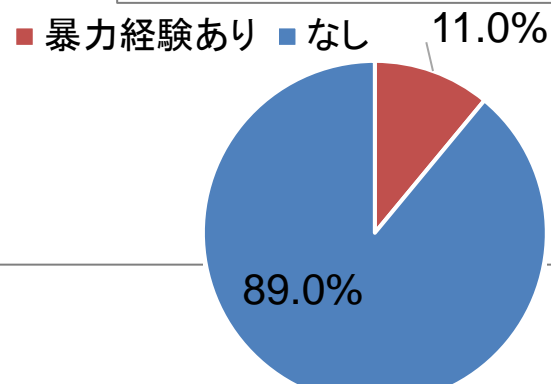
身体的暴力



非身体的暴力



セクシャルハラスメント



どのような訪問条件だと 暴力が発生しやすい？

- 日本の精神科訪問看護に関しては報告がない



• 世界各国の報告状況



- 地域で暮らす精神障害者においても、**統合失調症** (Flannery et al. 2001; Rao et al. 2007)、**パーソナリティ障害** (Rao et al. 2007)、**物質乱用** (Flannery et al. 2001; Rao et al. 2007; Swanson et al. 1999)、**過去の暴力行動** (Flannery & Walker 2001; Rao et al. 2007)があると暴力が発生しやすい

あまり変化しない特性なので、**静的要因**といえます

- **安全でないという感覚** (Flannery et al. 2001)、**幻覚** (Flannery et al. 2001; 2011)、**服薬していない** (Flannery et al. 2011)などがあると暴力が発生しやすい

変化しやすい特性なので、**動的要因**といえます

研究目的 と 研究方法・研究対象

研究目的: 精神科訪問看護の利用者から訪問看護スタッフへの暴力発生には、どのような訪問条件が関連するのか...を検討すること

研究方法: アンケートを用いた調査研究

研究対象: 全国47都道府県の訪問看護ステーション5,865施設

1,200施設をランダムに選び、研究実施を依頼

108施設が応諾

108施設に所属 かつ 精神科訪問看護を実施している訪問看護スタッフ: 計567名にアンケート調査への回答を依頼



収集したデータ と 分析方法



質問「過去12か月間に利用者からの暴力が発生したか？」



これらの回答の間に統計学的な関連があるか？を解析

質問「過去12か月間に●●の特性がある利用者へ訪問したか？」

静的要因：計13項目

- 精神科診断
例：過去12か月間に統合失調症の精神科診断がある利用者へ訪問したか？
- 何らかの精神科診断と物質関連障害（いわゆる依存症）の二重診断
- 二重診断までには至らないアルコール／薬物の乱用
- 過去の暴力行動

動的要因：計10項目

- 敵意／怒り
例：過去12か月間に敵意／怒りがある利用者へ訪問したか？
 - 不十分なセルフケア
 - 不十分な対人関係スキル
 - 不十分な服薬
 - 活発な精神病症状
- など

246名の回答の分析結果 その1

質問「過去12か月間に利用者からの暴力が発生したか？」

→ 40名(16.3%)の訪問看護スタッフが暴力発生を経験



質問「過去12か月間に●●の特性がある利用者へ訪問したか？」

計13項目の静的要因について、統計学的な関連のあり／なしをチェック

全10種類の精神科診断のうち...

- パーソナリティ障害
- 知的障害

関連あり

例：過去12か月間に知的障害の精神科診断がある利用者へ訪問したことと 暴力発生 が関連

- 何らかの精神科診断と物質関連障害(いわゆる依存症)の二重診断

関連なし

- 二重診断までには至らないアルコール／薬物の乱用
- 過去の暴力行動

関連あり

246名の回答の分析結果 その2

質問「過去12か月間に利用者からの暴力が発生したか？」



質問「過去12か月間に●●の特性がある利用者へ訪問したか？」

計10項目の動的要因について統計学的な関連のあり／なしをチェック

- 敵意／怒り
- 不十分なセルフケア
- 不十分な対人関係スキル
- 不十分な服薬
- 活発な精神病症状

計9項目に
関連あり

例：過去12か月間に活発な精神症状がある利用者へ訪問したことと暴力発生が関連

- 精神科訪問看護／訪問看護スタッフへの否定的な態度

関連なし

246名の回答の分析結果 その3

質問「過去12か月間に利用者からの暴力が発生したか？」



質問「過去12か月間に●●の特性がある利用者へ訪問したか？」

統計学的に関連があった

計4項目の静的要因、計9項目の動的要因を組み合わせ
暴力発生との統計学的な関連を解析してみると...

• パーソナリティ障害 関連あり

• 知的障害
• 二重診断までには至らない
アルコール／薬物の乱用 関連なし

• 過去の暴力行動 関連あり

- 敵意／怒り
- 不十分なセルフケア
- 不十分な対人関係スキル
- 不十分な服薬
- 活発な精神病症状...など

計9項目は
引き続き
関連あり

考察 その1

統計学的に関連があった静的要因

<ul style="list-style-type: none">パーソナリティ障害知的障害	関連あり
<ul style="list-style-type: none">何らかの精神科診断と物質関連障害(いわゆる依存症)の二重診断	関連なし
<ul style="list-style-type: none">二重診断までには至らないアルコール／薬物の乱用過去の暴力行動	関連あり

- パーソナリティ障害、知的障害の利用者へ訪問していると暴力が発生しやすいが、統合失調症ではそのようなことはない

世界各国の研究結果とは異なる部分があり、日本に特徴的な結果である可能性

- 上記4つの静的要因がある訪問では、暴力が発生する可能性があるため、対策が必要

利用者の情報が十分でない初回訪問などでも、上記の情報があれば対策を取れる



考察 その2

計4項目の静的要因、計9項目の動的要因を組み合わせ、暴力発生との統計学的な関連があった静的／動的要因

- パーソナリティ障害 関連あり
- 知的障害
- 二重診断までには至らない 関連なし
アルコール／薬物の乱用
- 過去の暴力行動 関連あり

- 敵意／怒り
- 不十分なセルフケア
- 不十分な対人関係スキル
- 不十分な服薬
- 活発な精神病症状...など

計9項目は
引き続き
関連あり

- 動的要因がある利用者への訪問していると暴力が発生しやすい

「怒っている」「身の周りのことができていない」といった動的要因の状況に注目して暴力が発生する可能性を判断していくことが重要



- 一部の静的要因(例: パーソナリティ障害など)は関連が持続
一部の静的要因(例: パーソナリティ障害など)と動的要因が重複する訪問では暴力が発生する可能性が高まりうることに留意すべき

最後に

- この研究の成果は、特定の特性を有する精神障害者の方々を危険視するものではありません
- 研究結果で示した特性を有する精神障害者の方々への訪問では、精神障害者の方々と訪問看護スタッフの間で、ボタンの掛け違いのような状況が起きやすい...のだろうと考えています
- また、この研究では暴力遭遇に関連する一つの側面を検討したにすぎません。より多側面の要因(例:暴力への発展を防ぐ要因)を含めた検討が必要です



- そうすることで地域で暮らす精神障害者と訪問看護スタッフの双方が安全に、意味ある訪問看護の実現につながると考えています